

2022年度業務実績報告書

提出日 2023年 1月 16日

1. 職名・氏名 助教 上谷祐子2. 学位 学位 修士、専門分野 看護学、授与機関 福井大学、授与年 2021年3月

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
① 担当科目名（単位数）	主たる配当年次等 小児看護学（2単位 毎年開講）学部3年次生（2022年）
② 内容・ねらい	さまざまな発達段階・健康障害とその段階・生活過程にある子どもに対し、適切な看護を行うための基本的な考え方や看護技術について学ぶ。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	看護過程の展開では、3事例展開している。学生の事例展開のグループワークにおいて、学生自身が考えられるように具体的な考え方の視点や、教科書等を参考にする際のポイントを伝え、時には共に考えてよりよいグループワークが進行するようにアドバイスを行っていった。講義では「在宅療養する子どもと家族の看護」を担当し、講義を通して病気を持ちながら在宅で生活する子どもとその家族がどのような生活を送っているのかを理解することを目的とした。重症心身障害児や医療的ケア児とは関わったことがなく、イメージがしにくい学生のために動画を通して子どもと家族の生活の様子を見たり、どのような支援が必要なのかを法律を通して考えていけるように工夫して行った。
① 担当科目名（単位数）	主たる配当年次等 小児看護学実習（2単位 毎年開講）学部3年次生（2022年）
② 内容・ねらい	子どもの成長発達、及び健康障害が子どもの身体・こころ・社会関係に及ぼす影響を理解し、より健康に育まれるよう子どものもてる力を活かしながら看護を実践し、評価する看護実践能力の習得を到達目標とする。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	小児看護学実習では約5日間の小児病棟または医療型障害児入所施設での実習を通して、看護事例展開と発達を意図した子どもとの関わり方を学ぶ。また、1～2日間の保育園または福祉型児童発達支援センターでの実習を通して地域社会で生活する子どもとの関わりを通して看護の役割を学んでいる。事例展開では、学生のもてる力を考えながら、具体的な助言をすることを意識している。また、臨床の場では特に報告・相談が必要になることを踏まえ、学生が自分から相談できるように、学生が伝えやすい環境になるよう意識している。また、実習の最後には教員との面談を通して、小児看護実習を振り返り、学生がよりよくなるよう次の実習での目標を設定できるように関わっている。
① 担当科目名（単位数）	主たる配当年次等 小児看護発展セミナー（2単位 毎年開講）学部4年次生（2022年）
② 内容・ねらい	既習の小児看護学関連の学習内容を踏まえた上で、学生自身がテーマを選択し、小児看護の専門性を探求する。具体的には、子どもとその家族に関連するテーマを選択し、医療・保健・福祉・教育等の連携の視点で文献検討を行う。また、文献検討の結果をプレゼンテーションし、グループメンバーによるディスカッションを通して学びを深める。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	学生のテーマ抽出から、文献検討結果のプレゼンテーションまでの過程において助言を行った。

① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等
卒業研究 (3 単位 毎年開催) 学部 4 年次生 (2022 年)

② 内容・ねらい

自ら探求する態度と研究能力の基礎を身につけることを目的としている。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

今年度は科目責任者の金粕先生が担当される学生について、共に助言等を行った。

(2)その他の教育活動

・福井大学医学部看護学科に対して「医療的ケアの必要な子どもの支援」についてオンデマンドで講義を担当した。(2021 年～)

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
① 著書	【 0本】
② 学術論文（査読あり）	【 0本】
③ その他論文（査読なし）	【 0本】
④ 学会発表等	【 0件】
⑤ その他の公表実績	【 0本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	

5. 地域・社会貢献活動

<ul style="list-style-type: none">・ふくいこどもホスピス活動（2022年6月～）・福井県立大学 新型コロナワクチン接種業務（2022年12月16日）・AHA ヘルスケアプロバイダー（2016年～）・AHA PALS プロバイダー（2016年～）・新生児蘇生法講習会「専門（S）」コース修了（2022年10月）

6. 大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
・実習検討委員会（2022年6月～）
(3)学内行事への参加
(4)その他、自発的活動など